

1 大学のキャンパス

雑踏の音や笑い声

大学生が行き交うキャンパス内を女の子（主人公…葵）が一人歩いている。

スマホの通知音

スマホを確認する葵。疲れた表情でスマホを下ろす。

スマホの通知音

メッセージのやり取り。

（旅行行ってきたん？）

（うん！）

（え！良いなあ！うらやましい！）

（んじゃ、次の休みどっか行かへん？）

（行く行く！！）

SNSにアップされた友達の旅行の写真を見る葵。

自分の写りの悪い写真がアップされているのを見つける。

メール着信音

就活サービスからのメールを確認する。

大学のチャイム音

未開封のメールがたまっていく。

雑踏の音

疲れたようにスマホを下ろす葵。

2 バス

バスのメロディ

「大学での人間関係に疲れ切った私は、左京区花脊で暮らす

葵（ナレーション）

祖母の家に行くことにした」

バスの中で窓の外を見ている葵。

バスを降りる。

3 吊り橋

響く足音

吊り橋を歩く葵。

川のせせらぎ

川の流れを静かにみつめる葵。

4 おばあちゃんの家（縁側）

鳥の鳴き声

葵

「ん〜っ」

縁側に座って伸びをする葵。

葵に寄りそう柴犬（名前…ボス）。

おばあちゃん

「葵ちゃん，よく来たねえ。」

お茶を持って来て，葵の横にすわるおばあちゃん。

おばあちゃん

「バス長かったし疲れたでしょう？」

葵

「うん」

おばあちゃん

「はい，これ葵ちゃんの好きな…あ，ボスはあかんぞ？」

葵

「ボスはダメだよ」

お茶の香りを嗅ごうとするボス。

おばあちゃん

「はい，葵ちゃんの好きな京番茶。はい，どうぞ」

葵

「わーありがとう」

あくびをするボス。驚く葵（おお〜）

鳥の鳴き声

5 おばあちゃんの家（庭）

薪を割る大きな音

薪を割るおじいちゃん。

葵

「おおー！」

葵（ナレーション）

「田舎暮らしといえば，薪割り。やってみたかってんなあ。」

楽しい曲調の音楽

「ちなみにこの人，おじいちゃん。」

薪割りを教えるおじいちゃん

（ピンキーこっち，アップ）

（アップーせいやっ）

葵

「イエス，イエス」

おじいちゃん

「わかりました？」

葵

「わかりました！」

薪割りに挑戦する葵。
(んゝいたっ！)

葵 (ナレーション)

「自分でやりたいって言ったけど、めっちゃむずい…。」
「ていうか，全然割れへん！」

薪が割れて落ちる音

割れて落ちる薪。

葵

「おお〜！」

「ノー…？」 (おじいちゃんの様子をうかがう葵)

おじいちゃん

「イエス！燃える燃える！」

6 おばあちゃんの家 (ストーブ)

炎が燃える音

薪ストーブに薪を入れようとする葵。

葵 (ナレーション)

「冬には欠かせへん，薪ストーブ。そうそう，これもやりたかったん！」

手をたいて喜んで笑う葵とおばあちゃん。

ストーブの中で燃える薪を見て，手をかざす葵。

葵

「あったか…」

おばあちゃん

「あったかいねえ」

7 小川のそば，紅葉の中を散歩

小川のせせらぎ

葵（ナレーシヨン）

「やっぱり，秋が好き。そんなことも忘れてたわ…。」

鳥の鳴き声

階段を降り，小川を眺める葵。

葵（ナレーシヨン）

「小川のせせらぎ。この辺のお水はおいしい。」

水の音

葵（ナレーシヨン）

「谷水や井戸水は飲料水として使えるらしい。
柄杓で水をすくい，土瓶に入れる」

8 おばあちゃんの家

葵（ナレーシヨン）

「田舎生活を楽しんでいる私は，そんなこんなで，おばあちゃんに左京区花脊で開催される煎茶会に誘われた。着物でお茶会。その組み合わせに惹かれて，私は煎茶会に参加することにした。」

おばあちゃんに着付けをしてもらっている葵。

おばあちゃん

「よいしょ，はい，できました。」

葵

「ありがとうー」

「あー可愛い可愛い，すごいすごい！」

二人の会話

（どう？）（可愛らしい！すごいすごい！）（やったあー！）（ぴったりぴったり）

9 煎茶会

小川のせせらぎ

紅葉した紅葉。

煎茶会の亭主

「お待たせいたしました。」

緊張した面持ちでお辞儀する招客。

煎茶会の亭主

「これから煎茶を一煎差し上げます。」

葵（ナレーション）

「ちよつと緊張しながら始まった煎茶会。でも思ったより、敷居が高くなく、お茶やお菓子をいただきながら、いろんな人とお話を楽しめる場所。」

「左から、林業を盛り上げる活動をされている川勝さん」

「地域活動に取り組む古原さん」

「北部山間地域の魅力を発信されている田邊さん」

湯呑にお茶を注ぐ音

5つの湯呑にお茶が注がれる。
茶托を受け取る葵。

煎茶会の亭主

「はい、揃いましたら、どうぞ。」

招客がお茶を飲む。

葵（ナレーション）

「一煎目。今まで味わったことのない深い味がした。」

煎茶会の亭主

「どうですか？味は。苦い？おいしい？」

笑顔でお茶を飲む招客。

葵（ナレーション）

「菊の形をしたお菓子。見た目もめっちゃ可愛い。」

煎茶会の亭主

「紅葉見ながら、ゆっくりと。外来でもゆっくりできたら、いいですよ。心がね、うん。」

二煎目の茶托を受けとる葵。

葵（ナレーション）

「二煎目。一煎目とはまた違った味がする。」

亭主の声掛けで、煎茶会が終わる。

亭主の周りに集まり、談笑する招客。季節の花や茶器などについて話す。

おばあちゃん

「菊か、これ。可愛らしいねえ。これはなんか、普通の菊じゃなくて、ピラピラーって。」

煎茶会の亭主

「ちょっと誰か菊を持ってきた人。私わからんわ。」

招客の笑い声

招客の間で、楽しそうな笑い声が起こる。

葵（ナレーション）

「煎茶会のあと、私もお点前を覚えてもらった。」

湯呑にお茶が注がれる音

お点前に挑戦する葵。

煎茶の先生

「ぼとぼとになってる！」

お盆の上にこぼれたお茶を見て、驚いて笑う煎茶の先生。

笑い声

立ち上がって笑う葵。

「全然入らなくて…」

招客の笑い声が響き、談笑が続く。

（みんな、なるなる）（みんななりました？よかった、私だけかと…。めっちゃ下手くそやと…。）

10. 帰りのバス

バスのエンジン音

バスにゆられて帰路につく葵。

葵（ナレーション）

「私のなかで張りつめていたものが、ゆるーくほどこけていく。そんな気がした。」

11. 出町柳駅付近

葵

穏やかな表情で橋をわたる葵。

「あ」

思い出したようにスマホを取り出し、SNSのアプリを消す。

葵

「よし」